



北海道福祉人材センターでは、一般社団法人北海道介護福祉士会の協力を得て、福祉・介護に関する基礎知識や日常に役立つ情報を定期的に発行しています。

今月のテーマ

「現場で働く私たち」

一般社団法人北海道介護福祉士会 理事 栗田 俊佑 氏

社会福祉法人友和会 デイサービスセンターきらら センター長 / 介護福祉士



◆介護という仕事の出会いと今

これまでの自分を振り返ると、介護の仕事との出会いは高校生の頃までさかのぼります。高校生の時に、テストで赤点を取り、追試とともに参加した社会貢献活動の中で、特別養護老人ホームを訪れ、そこで職員さんや入居者さんから「ありがとう」と声を掛けていただいたことが、介護の仕事との出会いになります。当時、祖母と暮らしていたこともあり、介護は決して他人事ではなかったこと、そして、介護保険制度が始まる前で世間からも注目されていた職業だったこともあり、自然と介護の仕事への興味が深まっていきました。高校卒業後は福祉の専門学校へ進学し、卒業後は盲養護老人ホームへ勤務し、その後、デイケアなどの現場を経験してきました。そして、新規開設を予定していた社会福祉法人とご縁があり、平成14年4月から現在に至ります。

振り返ってみると、最初の頃は「目の前の仕事を必死にこなすこと」で精いっぱい、「業務を早くこなせる人」が仕事のできる人だと思っていました。しかし、様々な経験する中で、その考え方は少しずつ変わっていきました。利用者さんにとって、何が一番良いのか。一緒に働く職員にとって、より良い仕事とは何なのか。仕事の内容を見直し、挑戦しては失敗し、また修正する。そうしたことを繰り返す中で、今の職場は、私にとって単なる「働く場所」ではなく、自分自身が変わっていくための大切な場所になりました。



(写真：社会福祉法人 友和会)

◆働きながらのキャリアアップ

私にとって今日までの道のりは、例えるなら目的に向かって旅を始め、学びや経験を積み重ねるうちに、立場や職種を越えた仲間ができ、共に協力しながら困難を乗り越え冒険するロールプレイングゲームのように感じています。具体的に説明をすると、仕事をして深く関わり、経験を積むにつれ、仕事に対する向き合い方や考え方が変わっていき、キャリアについても考えるようになりました。





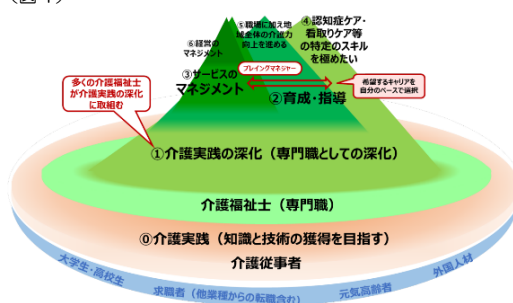
大きなきっかけとなったのは、現在の職場が開設当時、事業所が行うサービス内容の中核に携わる機会をいただいたことでした。ここでやる気にスイッチがー気に入り、利用者さんやご家族にとって、より良いサービスを届けるために「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」という仕事に対する向き合い方が変わり、同時に自分自身の知識や技術、視野を広げようと行動に移しました。

まず、全国各地のサービスを情報収集し、他事業所を訪問しサービスを学ばせてもらい、数多くの外部研修にも参加しました。そこで学んだことを実践し、良い評価を受けたこと、沢山の仲間と出会えたことなどの経験が、また次の学びへの意欲、キャリアアップへの興味につながっていきました。

日本介護福祉士会で推進する山脈型キャリアモデル (図1) (図1)

は介護福祉士習得後も段階的に専門性を高める生涯研修があり、一人ひとりが目指したい目標を描くには分かりやすい図解となっています。その道を選ぶかどうかは自分次第ですが、学ぶことで、介護は面白くなるし、自分たち次第で仕事も、もっと面白くする事も可能です。

私は今年度から北海道介護福祉士会理事として就任しましたが、この生涯学習にまだ参加できておらず未熟な立場ではありますが、自分自身で道をデザインできるよう、挑戦し続けたいと思います。



出典:「介護福祉士のキャリアアップにおける職場環境等の影響に関する調査研究事業報告書」日本能率協会総合研究所 2024/3

◆ワークライフバランス

今回は、デイサービスセンターきららにフォーカスし、サービスの内容と取り組みを紹介します。現在、当デイサービスでは、1日平均約37～39名、介護度は平均 1.39 の利用者さんを11～12名の職員でサービス提供しています。以前から、利用者さん一人ひとりの「好きなこと」や「やってみたいこと」を大切に、できるだけ自分で選んで楽しめるようなサービスを目指しています。麻雀や囲碁、将棋、オセロなどのボードゲームはもちろん、カラオケ、手芸などのアクティビティや日替わりのレクリエーション。機能訓練でも、ただ身体を動かすだけではなく、近隣の公園への散歩やスーパーでの買い物、料理教室、旅行を想定した外出など、実際の生活につながる活動を取り入れています。

日常の身体的援助は軽度の利用者さんが多い事もあり、介助場面は少ないです。しかし、職員個々が利用者さん一人ひとりに寄り添った多様なサービスを提供する為、精神的に気を抜けない職場でもあります。そのため、職員自身が疲れ切ってしまうては、良いサービスを続けることはできません。仕事とプライベートのバランスが保てるよう、生産性の向上として業務の見直しや効率化、職員間の情報共有の方法を工夫、ICTの導入や会議をスマート化するなど、職員同士が協力しながら「残業を減らす」「休暇を取りやすくする」ための取り組みも行ってきました。休みが充実すると、旅行・趣味・家族と過ごすなど仕事以外の場所でもさまざまな経験を、そこで得た経験や気持ち、仕事面で利用者、職員問わずコミュニケーションが増えたり、新しい発想や企画につながったりしています。結果、私が勤務するデイサービスという小さなコミュニティでも仕事での効率化(WORK)とプライベートの充実(LIFE)は両面で高いパフォーマンス向上に大きく関わっている事がわかります。



◆おわりに

介護の仕事は、大変なこともたくさんありますが、それ以上に、人と出会い・学び・挑戦し、自分自身も変わっていける仕事です。こんなに楽しい仕事は、他にはないと私は思っています。今も昔も“この仕事をやっていて良かった”と思える場所を、みんなで作っていききたい気持ちに変わりありません。少しでも興味を持ってくれた方へ、一緒に働きましょう！

◆読者へのメッセージ

日々の生活に寄り添う介護の仕事は大変な事も沢山ありますが、その介護を10倍楽しく充実する為に大事にしている事があります。それは、利用者さんも職員もコミュニケーションをたくさん取る事にあります。その人のことを知り自分のことも知ってもらうこと。これが出来れば、「こんな楽しい仕事は他にはない!」と思います。

皆さん、介護の仕事でお待ちしています。

〔施設の紹介〕

社会福祉法人 友和会

事業内容 生活支援ハウス／通所介護／居宅介護支援事業所／認知症対応型共同生活介護

設立年 平成14年4月1日

理念 愛（心を受ける愛情あるサービス提供）
希望（共に共感できる安心した環境づくり）
感謝（互いに慈しみ合う感謝のこころ）

職員数 58名

H P <https://yuuwakai-kirala.jimdofree.com/>



社会福祉法人 友和会 きらら



一般社団法人北海道介護福祉士会

介護福祉士の職業倫理の向上、介護に関する知識技術・経験を深めて資質向上を図り、北海道の福祉の推進に寄与している団体です。 ★ 新入会員募集中 ★

TEL&FAX 011-222-5200



ホームページ
はコチラ



入会のご案内
はコチラ

北海道福祉人材センターからご案内

詳細はホームページで
ご確認ください。

福祉のお仕事体験 してみませんか?

体験先選びや
申込みの
お手伝いを
します!

体験先 高齢者・障害者施設、保育園など

体験日数 1日～10日以内

参加費
無 料

交通費
支 給

道内各地で
開 催

高校生以上
どなたでも

「ふくし・かいご通信」を
お読みいただきありがとう
ございます。

皆さまからのご感想をお待ちして
おります。

ご感想
入力フォーム



<https://forms.gle/dMtqQ1vNVuGNthSz5>

北海道福祉人材センターでは、福祉職場への就職に関する
相談を随時受付けております。

TEL 011-272-6662



発行：社会福祉法人北海道社会福祉議会
北海道福祉人材センター